

市立病院だより

ほほえみ



発行 越谷市立病院
 発行人 院長 丸木 親
 編集 院内情報誌編集委員会
 連絡先 〒343-8577
 越谷市東越谷10-32
 電話 048-965-2221 (代)
 F A X 048-965-3019
 発行日 令和元年(2019年)10月
 (No.41)

秋から冬に流行する小児感染症

小児科医長

岩崎 卓朗
いわさき たくろう

秋から冬にかけて流行する感染症には、RSウイルス感染症、インフルエンザ、ノロウイルス感染症、ロタウイルス感染症があります。

RSウイルス感染症は、1歳までに70%、2歳までにほぼ100%の子どもがかかると言われています。再感染があり、生涯にわたり何度も感染しますが、2回目以降の症状はあまり重くはならないということもわかっています。発熱を伴う上気道症状が主症状で、重くなると呼吸困難で入院することもあります。非常に多く、小児医療にとって最も厄介なウイルスです。中耳炎の合併が多く、喘息になりやすい子はその後長い間ゼーゼーするなど、色々なことがわかっていきます。流行することの多い病気ですが、症状の軽い人も多く、手洗いの徹底やうがいなどでしか予防ができないため、流行しないようにするというのは難しいです。

RSウイルスは迅速診断キットで簡単に診断できるようにになりました。1歳未満では保険の適用がないため、すべての子どもにも検査を行うわけではありません。

インフルエンザは上気道症状が多いですが、限局した症状だけでなく、全身状態や呼吸状態への影響、合併症、細菌感染の合併、もともと持っている病気の悪化などが相まって発病します。多くは発熱や上気道症状で経過し、1週間から2週間前後で軽快します。今は迅速診断キットで診断できるようになりましたが、迅速キットが必ずしも正確とは限りません。発熱した日に検査しても陽性が出ないことも多くあります。また、鼻水だけ出ていて熱のない赤ちゃんがインフルエンザだとわかることもあります。診断されれば今はインフルエンザに対しての内服、吸入などの治療があります。

また、毎年予防接種についてはその年に流行しているインフルエンザのウイルスと合っているのかということが話題となります。ワクチンというのは、ここ十数年はAソ連、A香港、Bという3種類を入れてありますので、これが外れるということはありません。しかし、毎年少しずつ変わっているため、そのズレが大きいとあまり効きません。また、血液の中にウイルスが入れば抗体は効きますが、鼻の粘膜にウイルスがついた際には予防注射でできた抗体は効きません。インフルエン

ザは鼻の粘膜につくとすぐに症状を起しますので、打っていても発病してしまう人がたくさんいるというのも現実です。
 インフルエンザは時にけいれん、意識障害などを主症状とした熱性けいれん、脳炎、脳症などを合併します。けいれんや意識障害を認めた場合は救急車で医療機関に受診していただく必要があります。

ノロウイルスとロタウイルスは、感染すると胃腸炎を引き起こすウイルスです。ノロウイルスは大体秋から流行します。11月頃から流行し熱はそこまで高くなりませんが、突然吐いて、その後、下痢症状が出てくることが多いです。最近、これを調べる迅速診断キットも出てきましたが、実施している医療機関は少ないと思います。ノロウイルスは時に大流行を起こすことがあります。特に集団で起こるのは、吐いたものの掃除が不十分で、それが乾燥してウイルスが空気中に飛び散ることが大きな原因と考えられています。ウイルスが部屋の中を回るようになり、部屋にいる人全員がかかってしまう、あたかも食中毒のような感じで流行することがあります。治療は脱水の治療であり、嘔吐が続く場合などは点滴や入院が必要となることもあります。

ロタウイルスは2月頃から徐々に多くなります。大抵高熱が出て激しい嘔吐、その後、米のとぎ汁様で水様の白っぽい便が長く続きます。非常に脱水になりやすく、点滴や入院が必要となることが多い病気です。症状自体は1週間程度で治まります。ノロウイルス同様、感染力は強く、便や吐物から感染します。

《裏面へ続く》



吐物や汚染された衣類、寝具、床などに注意が必要で、ほぼ全ての人が5歳までに1度は感染しますが、その後にも生涯にわたり何度も感染を繰り返しますが、1度感染していると2回目以降は軽い症状で済むことが多いです。また、ワクチン接種も導入され、重症化する患者さんは減ってきていますが、ごくまれに脳炎、脳症、無熱性のけいれんを引き起こすこともあり、注意が必要です。

いずれのウイルス感染も、自然に軽快していくことがほとんどですが、経口摂取不良、長引く発熱、長引く症状を認める場合は再受診が必要となります。

秋・冬にかけて流行の小児感染症

7-12病棟担当師長

だいたくむっこ
大徳 睦子

これから本番を迎えるRSウイルス感染症と感染性胃腸炎(ノロウイルス感染症・ロタウイルス感染症)について紹介します。

◇RSウイルス感染症

原因

- ① 空気中のRSウイルスを鼻や口から吸い込んだり、RSウイルスの付いた手や物から体の中に入ることで感染する。
- ② 発症前にも周りの人に感染させてしまいうす。感染力が強く特に生後1ヶ月から4歳の時期にかかりやすい。

症状

発熱・鼻水・せき・ゼーゼーした呼吸・肩を上下させる息苦しそうな様子
大人は感染しても重症になりにくいですが、新生児・乳幼児は呼吸障害が悪化し重症化しやすい。

受診の目安

- ① 生後6ヶ月以内の乳児(特に3ヶ月以内)の発熱
- ② わきの下、足の付け根、首の後ろを冷やしても解熱せず、ぐったりしている。
- ③ せきや鼻水で呼吸が苦しそう(呼吸が速い・息を吸うときに胸をへこませる)。
- ④ 顔色が悪い。
- ⑤ 食事・ミルクや母乳の摂取ができない。

◇感染性胃腸炎

原因

- ① ウイルスで汚れた手を介して感染する。
- ② ウイルスを含んだ吐物が乾燥し舞い上がった空気を吸って感染する。
- ③ 感染者によって汚染された食品を介して感染する。

症状

ノロウイルス
① 水様の下痢・嘔吐・発熱・腹痛
② ノロウイルスに感染すると12時間〜2日間の潜伏期間を経て①のような症状が出現する。
症状が改善しても1週間程はウイルスが便に排出される。

ロタウイルス

- ① 発熱や嘔吐・下痢(すっぱい匂いで白い水様下痢)
- ② ロタウイルスに感染すると1〜3日の潜伏期間を経て①のような症状が1週間程度出現する。

症状が改善しても10日間程はウイルスが便に排出される。

受診の目安

- ① 口から食べても直ぐに嘔吐してしまい摂取できない。

② 嘔吐・下痢が続くとき
③ 下痢が続くとき
明確な基準はありませんが、このような症状が続く時はかかりつけ医を受診してください

★感染を広げないために吐物・オムツ処理・洗濯を適切に行いましょう

【吐物処理の仕方】

- 必ず手袋とマスクをしてください。
- ① 手袋・マスクを装着し先ずティッシュで吐物の周りを囲み中心に集める。
- ② 中心に集めた吐物をすくいあげるようにしてビニールに入れる(繰り返し返す)。

- ③ ハイター(水500mlに対してハイター10ml)をバケツなどで作成し、ティッシュなどに浸し拭き取る。
- ④ ビニールの口を閉めて破棄する。破棄した後は手洗いを忘れずに行う。

【オムツ処理の仕方】

- 必ず手袋とマスクをしてください。
- ① 手袋を装着しビニール袋を用意し替えたオムツをビニールの中に入れ、口を閉じる。
- ② オムツはオムツだけのゴミ袋を作り破棄する。破棄した後は手洗いを忘れずに行う。

【洗濯の仕方】

- ① 汚染した洋服を着て汚れたら捨ててしまった方が確実
- ① ハイター(水2000mlに対してハイター10ml)を作成し、汚染された洋服の入ったビニール袋に入れ、口を閉じもみ洗い。
- ② 汚水はトイレへ流す
- ③ 再度①で作成したハイターをバケツに入れ1時間程浸した後、洗濯機で普通どおり洗い乾燥させる。



小児とインフルエンザ治療薬

薬剤科主任

土井 由布子



■抗インフルエンザウイルス薬は現在5種類(表①)
抗ウイルス薬が必要と判断された場合は、年齢とそれぞれのお薬の特徴からその子に合ったお薬が選ばれます。

いずれのお薬の添付文書にも①症状の発現から2日以内、あるいは可能な限り速やかに投与を開始すること、②症状発現から48時間経過後に投与を開始した患者での有効性を裏付けるデータはないこと、③インフルエンザ罹患時には、異常行動による転落等の万が一の事故を防止するため、少なくとも2日間は小児が1人にならないよう配慮すること、などの記載があります。

■小児ではタミフルドライシロップ®が処方されることが多い

吸入が確実にできるか分からない場合は、タミフルドライシロップ®が処方されます。

タミフルドライシロップ®は通常少量の水に溶いて飲ませます。しかし特有の苦味があるため、飲みにくい場合は以下の方法により飲ませやすくなると言われています。

○混ぜると飲ませやすくなるもの…チョコレートアイス、ヨーグルト、ココア、オレンジジュース、スポーツドリンク

×混ぜると飲ませにくくなるもの…乳酸菌飲料、バナナアイス、リンゴジュース

■タミフル®は低出生体重児又は2週齢未満の新生児に対してはほとんど使用しない!

低出生体重児又は2週齢未満の新生児に対しては使用経験が得られていないため、抗インフルエンザ薬の投与は医師の判断で有益性が有意に上回ると判断された時のみになります。



解熱しても体の中には
ウイルスがまだ残っています。
処方されたお薬はしっかり飲みきりましょう!!

表①

商品名	タミフル®	リレンザ®	イナビル®	ラピアクタ®	ソフルーザ®
作用機序	ノイラムニダーゼ阻害				キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害
投与経路	経口	吸入	吸入	点滴	経口
用法用量	1日2回 5日間	1日2回 5日間	1回	1回	1回
メモ	カプセルとドライシロップがある		単回吸入で治療終了!逆に言うと失敗できない	重症、基礎疾患がある時	

☆認定看護師による公開講座のご案内☆

当院では13名の認定看護師・専門看護師が活動しており、毎年度、市民・近隣の皆様に向けて公開講座を開催しています。

今年度は「認定看護師が伝える“いきいき健康講座”」と題しまして、専門知識を持った看護師が、“腸活”“高齢者のうつ病”“身体と栄養”についてわかりやすくお伝えします。健康を維持するため今できること、一緒に考えてみませんか。

☆公開講座のご案内☆

【日時】
令和元年11月19日(火)
13:00~15:00

【会場】
越谷市立病院
西棟3階会議室

【参加費】無料
【申込み】不要
※どなたでも参加できます。
※当日会場にお越しください。



新採用医師の紹介

○ 令和元年(2019年)6月1日付

(小児科)

なかみち のぶあき
中道 伸彰

(小児科)

たきぐち まみ
滝口 真未

○ 令和元年(2019年)7月1日付

(呼吸器科)

なかざわ しゆん
中沢 舜

(整形外科)

乾 哲也

(整形外科)

あいざわ まお
會澤 真緒

編集後記

今年の夏は猛暑日が続いて、さらには台風や豪雨もあり、日頃の防災の備えが必要と思いは知らされました。皆さんも体調を崩されてはいなかったでしょうか。10月は夏の疲れを整えて、実りの秋を楽しみましょう。

院内情報誌編纂委員長 尾羽澤 英子